

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2016年10月17日発行 No.17

「あなたのパンを水に浮かべて流すがよい。月日がたってから、それを見いだすだろう。」

(旧約聖書 コヘレトの言葉 第11章1節)

<秋は進路の季節!! チャペルでの小さな出会いが人生を大きく拓くカギとなる!! …かも?>

前任地が高等学校だった私。毎年この時期は、3年生で指定校やAOなどの推薦受験が始まり、そのための書類作成や面接練習など、失敗できない緊張感の中で進路指導に力を注いでいたように思います。今年度からは、大学に移り高校生を迎える立場になりましたが、高校生や先生方の気持ちや苦勞が分かるだけに、短い時間ですがチャペルの案内に思わず力が入ってしまいます!! 案内をしながらいつも感じるのが、このチャペルが持つたくさんの魅力です。いつでも心をリセットできる静けさや、色々な出会いが与えられる礼拝の講話、芸術的センスを高めるオルガン演奏など、規模的には小さいけれど、訪れて下さる一人ひとりの未来を拓くような場所となるように、これからも一つひとつの働きに全力で取り組んでいきたいと思っています!!



チャペルの静けさにびっくり!!



パイプオルガン演奏にまたびっくり!!



触れる事ができるなんて…

<第2回映画鑑賞会!! 数々の奇跡に満ちたモーセの人生を最高のスタッフ陣で再現!!>

先週木曜日は、第2回目の映画鑑賞会 in チャペルを行い、「Prince of Egypt」を観ました。旧約聖書の出エジプト記が元となった映画で、主題歌に「Deliver Us (私たちを導いて下さい)」というものがありました。聖書を書き残したイスラエルの民は、長い間エジプトの奴隷とされたり、明日への確証がない中で長い旅を強いられるなど、様々な苦しみを経験しました。しかし、そんなイスラエルの民を支え続けたのが、「必ず神様は我々を導いて下さる」という揺るぎない信仰でした。明日に希望が持てないような時でも、彼らは見えない神を信じ、そこに自分の土台を据え続けた…。その記録が、チャペルで毎日読まれている「聖書」なのです。時代や国が変わっても、人を活かし勇気付けるメッセージが変わらない事に不思議な温かさを感じます。チャペルでは、これからもこのようなメッセージを持つ映画をどんどん上映していきます!!お楽しみに!!



学生の参加も増えてきました!!

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

10月10日(月) 野間 光顕(チャプレン) テーマ:「この時代に生きる私たちの矛盾」

この夏、家族で祖母の墓参りをした。お墓は、父の実家の近く、穏やかな里山の麓にあった。息子ら共に掃除をして、短く黙祷を捧げると、祖母と共に過ごした様々な思い出が心の中に湧き上がってきた。ゆっくり深呼吸すると、山からの風が体を優しく癒してくれるような感じがした。半世紀以上大きく姿を変えていないその小さな村には、本当の意味で人を癒す不思議な力が満ち溢れていると感じた。今日の聖句「あなたの信仰があなたを癒した」というイエスの言葉のように、真の癒しは目に見えない大切な存在との繋がりの中に備えられている。

10月11日(火) 山本 紗百合さん(経済学部3年生) テーマ:「平和の扉」

私は、昨年に引き続き今年も8月のヒロシマ平和旅者に参加した。多くの被爆建造物を見て回る中、核兵器や戦争のない平和な世界を願って造られた平和の鐘に刻まれた文字「自己を知れ」に目に留まった。私たちは戦争で失われた命の犠牲の上に生かされているが、戦争はなくなる。本当の平和は訪れるのか? 今を生きる私たちが、戦争の怖さ、悲惨さを想像しながら、同時に命の尊さを後世に伝えていく。これが平和の扉を開くカギになるのではないか。同じ過ちを繰り返すのではなく、今ある日本の平和と自分の命に感謝して、一日一日を精一杯生きていきたい。



10月12日(水) 大谷 啓尊先生(リハビリテーション学部) テーマ:「支援のあり方について」

「リハビリテーション」は、高齢化社会を迎えている現代社会において、ケガを予防し機能障がい等を回復させる、非常に重要な役割を担っている。例えば、歩行訓練者と共にドアの前まで来たら、皆さんはどうするか? 一般的にはドアを開ける事が親切なケアと思われるかもしれないが、私はそうしない。なぜなら、そこには一人で行動できるようになるための過程が存在し、それを過度にサポートする事は、患者のためにならない。どこまで援助し、どこから手を離すか? これは日々の教育活動でも同じだと感じている。

10月13日(木) 上杉 雅之先生(リハビリテーション学部) テーマ:「謙虚であること」

私はこの大学に来る前、肢体不自由児の福祉施設で21年間働いた。そこでは、障がいを抱えた子供たちの支援を基本として、楽しい雰囲気作りなどの配慮や、保護者との関わり(むしろこれがメイン?)など、様々な働きが与えられた。今、その学びをどれだけ生かしているだろうか? 人は初心をすぐに忘れてしまう弱さを抱えている。哲学者のパスカルは「神なき人間の惨めさ」を説いているが、私たちも奢る事なく、何事に対しても初心を忘れず、謙虚に取り組みたい。

10月14日(金) 小門 陽先生(リハビリテーション学部) テーマ:「ノーベル物理学賞」

今年のノーベル物理学賞は、あることを幾何学・数学と物理学が結びつけることによって証明した学者に送られた。皆さんは経済学部生、またリハビリテーション学部生として専門の勉強に励む必要がある。しかし、自分の専門分野、自分の好きなことだけをするのではなく、いろいろなことに興味を持ち、学んでほしい。自分の専門分野を学ぶことですぐに結果は得られないだろうが、そうしたことが後に素晴らしい結果を生む。

(文責:野間 光顕)